

4 Jomon Times

vol. 242

広報 縄文村だより vol. 242(4月号)

令和8年4月1日
●編集・発行●
奥松島縄文村歴史資料館
東松島市宮戸字里81-18
TEL 88-3927 FAX 88-3928



来たる！ カキ収穫の時。

カキ養殖体験②収穫

2月8日(日)、カキ養殖体験の収穫を開催しました。4月に種付けをしてから10か月。カキはどれくらい成長しているのでしょうか？

いざ、収穫！

事前に漁師さんと職員でカキを海から引き揚げました。参加者さんには、カキ縄から金づちを使ってカキをとりはずす「カキこなし」の作業を行っていただきました。やはり夏の猛暑で殻は小ぶりなものが目立ちましたが、初参加の皆さんは「カキってこんなふうになるんだ…！」と感心した様子でした。



ココを叩けばいいのかな？

縄文式カキ剥きに挑戦！



資料館に戻りカキを食す前に、縄文式のカキ剥きについて学びます。里浜貝塚から出土するカキ殻には穴があいており、殻に穴をあけてヘラでこじ開けていたことがわかっています。

道具を使ったカキ剥きの方法が判明しているのは里浜貝塚だけ！里浜縄文人式のカキ剥きに、現代人も挑戦してみます。「意外に剥きやすい！このヘラ欲しい！」という声も聞こえてきました。



ちょっとひとこと

展示室にある骨ペラ。シカの足の骨を半分に分けて作った道具。殻の隙間にヘラを差し込んでひねりながらこじ開けた際にできたと思われる傷もヘラに残っています。



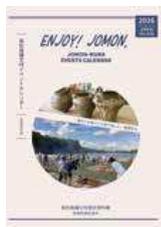
カキを味わう！

講座後は、待ちに待った試食の時間！土器で作ったカキ鍋、スタッフ特製カキごはん、そして採れたてカキの炭火焼きを味わいました。

小ぶりながら、旨味がぎゅっとつまったカキにおかわり続出！奥松島の冬の幸を味わい尽くしました。



R8年度イベントカレンダーを発行しました！



4月2日(木)より、令和8年度縄文村イベントの申込みを開始します。カレンダーは縄文村および市内各施設で配布のほか、ホームページでもご覧いただけます。



毎年すぐに定員になるイベントもあります。お早めにお申込みHPはこちら ください！

ゴールデンウィークは縄文村へ！

毎年恒例のゴールデンウィーク企画「縄文体験・体感WEEK！」を今年も開催！こどもの日はどなたも入館&体験無料で楽しめます。

開催期間 5月2日(土)～5月5日(火)
受付時間 9:30～14:30(5日は10:00～14:30)
参加費 入館料+各種体験料

5月6日(水・振休)は開館しますが、**縄文体験はお休みさせていただきます。**

休館日についてのお知らせ

縄文村は**水曜休館**です。ただし、祝日の場合は開館します。4月29日、5月6日は開館日です。

縄文村公式 SNS はこちら！



シリーズ 第59回

東松島の教育を語る



「東松島市版 魅力ある学校づくり」を目指して 東松島市教育委員会

東松島市では、「ふるさと東松島を愛し、新たな時代を志高く拓く、心豊かな人づくり」の教育基本方針のもと、「誰一人取り残さない教育」を推進していきます。具体的には、居場所づくり・絆づくり・授業づくりを3本柱とした「東松島市版魅力ある学校づくり」を目指し、子どもたちの自己肯定感を育むために「出番・役割・承認」の教育活動をスローガンに掲げ、公教育として「学力保障」と「成長保障」の二兎を追うことを不易の目標に様々な取組を行っていきます。

授業においては、4人グループでの聴き合い、学び合いが定着してきました。分からない子を放っておかず、仲間同士で分からないことを共有することで、それぞれの思考力や判断力、表現力の向上につながっています。日常生活で支え合う関係づくりにも生かされ、自己肯定感の醸成にもつながり、いわゆるいじめや不登校などへの有効な処方箋となっています。



動き方改革元年となる8年度は、「ひがまつWaku-Workプロジェクト」を始動させます。教職員の業務量管理や健康確保措置を実施し、働きやすさと働きがいの両立を目指します。教職員が健康であることが最大限専門性を発揮できる条件となるため、教職員向けの教材資料などの閲覧Webサイトも立ち上げ、サポートしていきます。関連して保護者相談などを専門とした学校応援窓口を市教育支援センターに置き、専門職として新たに「教育メディエーター」を配置します。

これまで「目指す15歳の姿」として小中連携に力を入れてきましたが、今後は幼・保・小連携教育と接続し、0歳から15歳までの切れ目のない教育を進めてまいります。また、東日本大震災の被災地として、防災の伝承に向けた「未来防災塾」も開催し、地域から学校・子どもたちへ、教師から教師へ、子どもから子どもへ、子どもから地域へと語り継ぐ循環を生み出していきたいと思っております。

地域、保護者の方々には一層の協力をいただき、家庭でのデジタルメディアコントロールチャレンジの一層前に進めていきたいと考えています。



あいざわすむ 相沢進 教育長